

『『超モノづくり部品』によるゼロカーボン』セミナー
2022年1月12日開催



モノづくり日本会議

事業紹介

日刊工業新聞社
モノづくり日本会議事務局

立松 直樹

モノづくり日本会議とは…

- 1,900社を超える会員企業をはじめ、官公庁や大学・高専などの教育機関などとの連携が触媒となり、「**超**モノづくり」を推進する国内外でも類を見ない組織。
- 産業横断的組織という特徴を生かし、さまざまな規模・業種の企業の皆様から参加いただきながら、イノベーション創出に結びつく事業を展開。
- 新型コロナウイルスのパンデミックにより、顧客のニーズが変化し、デジタル化・自動化・非接触・リモート対応が前倒しで進む中、産業構造の変革に照準を合わせた事業を展開。
- 柱となる事業は、国際競争の激化、デンタルヘルスビジネス、環境制約、少子高齢化および人材不足など、わが国のモノづくりが直面する課題の解決策と新たな成長への道を探る「グローバル競争力強化関連事業」と「新産業・ビジネスモデル創出／ビジネスモデル構想力向上検討事業」。
- さまざまな企業・研究機関・団体の皆様にご協力いただきながら、連携やイノベーション創出に結びつく事業を展開。
- 政府の成長戦略に沿ったテーマのほか、地域活性化に寄与すべく地方の中堅・中小企業を対象にした事業にも注力。

組織体制 (2021年11月現在)

【共同議長会員】(8社)

【常任幹事会員】(16社)

【幹事会員】(37社)

【一般会員】(35社)

【賛助会員】(1,819社)

【事務局】

日刊工業新聞社

【共同議長】

伊藤 一郎 氏 (旭化成株式会社 名誉会長)

御手洗 富士夫 氏 (キヤノン株式会社 代表取締役会長兼社長 CEO)

石塚 博昭 氏 (国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 理事長)

十倉 雅和 氏 (住友化学株式会社 代表取締役会長)

日覺 昭廣 氏 (東レ株式会社 代表取締役社長)

内山田 竹志 氏 (トヨタ自動車株式会社 代表取締役会長)

東原 敏昭 氏 (株式会社日立製作所 代表執行役 執行役会長 兼 CEO)

津田 純嗣 氏 (株式会社安川電機 代表取締役会長)

《グローバル競争力強化関連事業》

モノづくり力徹底強化検討会

IoT、AI、5G（第5世代通信）、クラウド、ロボット、積層造形（3Dプリンティング）といったデジタル技術によって、モノづくりが大きく変わろうとしています。さらに工場単位での効率化にとどまらず、DXが製品開発やサービス、さらには顧客やパートナー企業まで巻き込んだビジネス変革の基盤になるとの期待もあります。デジタルモノづくりで先行する海外事例も踏まえながら、サービスやコトづくりを含めた「新しいモノづくりのカたち」を見ていきます。

ビジネスモデル価値創造研究会

製品に付随してさまざまな価値を顧客に提供する「モノづくりのサービス化」の事例研究などを通じて、価格競争に巻き込まれずに利益を増大し結果的に生産性向上を実現する取り組みについて検討します。

人材育成関連事業

少子高齢化が課題となる中でモノづくりを支える人材の育成について検討します。特にDX時代における、働き方・働きがいのあり方を考察します。求められる能力開発・人事評価についてのほか、高齢人材の積極的な活用も議論し、次世代を担う児童・学生や、若者向けの体験型のイベントも開催します。

新モビリティ研究会

コロナ禍で需要大幅減に見舞われる一方、CASEやMaaS（乗り物のサービス化）により大変革期を迎える自動車産業。国内外のIT企業やスタートアップの動きもウオッチしつつ、単体の車にとどまらない移動ビジネスの今後を展望します。

長寿企業イノベーション勉強会

わが国に創業100年を超す長寿企業が多いことに着目し、災害や経済恐慌など危機を何度も乗り越えてきた長寿企業から日本型経営の優れた点を抽出、分析。会員企業の経営手法のヒントとなる情報を発信します。

企業価値革新検討会（仮称）

カーボンニュートラルをはじめとする環境面における取り組み、SDGsへの対応など、企業は社会において果たす役割を明らかにする必要に迫られています。こうした対応はまた、企業価値を向上させる契機となりうるものです。ポストコロナへの対応も含めて、企業価値を革新していく好機を、さまざまな業種の企業が生かせるよう、イノベーションの手法などを具体的に検討していきます。

モノづくり体感スタジアム

「モノづくり体感スタジアム」は、モノづくり日本会議会員企業がモノづくりや理科、科学の楽しさを子どもたちに伝えることを目的に、ワークショップなどを一堂に集めて行う体験型のイベントです。

本会議は、モノづくりの次代を担う子どもたちに、モノづくりの楽しさを伝え、興味関心を喚起することを、わが国の将来を見据えた上でも、重要な使命と捉えています。

子どもたちにモノづくりの魅力を伝えると同時に、社会貢献や企業情報を発信する機会として活用できます。

◇実績◇

モノづくり体感スタジアム2021オンライン

日時：2021年8月16日（月）～25日（水）

形式：オンライン開催（ライブ配信、オンデマンド配信）

主催：モノづくり日本会議、日刊工業新聞社

参加者：322名（お子さま）

「こども『ちよぼきんばこ』製作教室」

野火止製作所

「単極モータ工作とその説明」

電気理科クラブ

「クイズで知ろう！身近で活躍するベアリング」

NTN

「クイズ!! エネルギーと環境の未来をかんがえよう!」

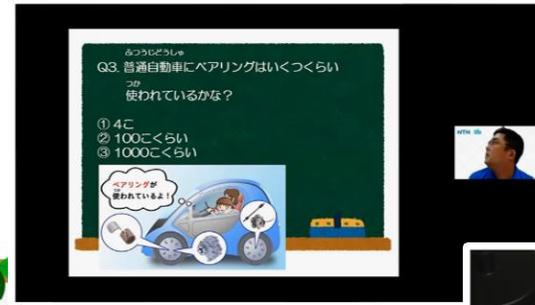
新エネルギー・産業技術総合開発機構

「警報装置を手づくりしよう!」

ホーチキ

詳細は、「モノづくり体感スタジアム」ホームページをご覧ください。

>> <https://mono-stu.jp/>



モノづくり
体感スタジアム

《グローバル競争力強化関連事業》

モノづくり力徹底強化検討会

IoT、AI、5G（第5世代通信）、クラウド、ロボット、積層造形（3Dプリンティング）といったデジタル技術によって、モノづくりが大きく変わろうとしています。さらに工場単位での効率化にとどまらず、DXが製品開発やサービス、さらには顧客やパートナー企業まで巻き込んだビジネス変革の基盤になるとの期待もあります。デジタルモノづくりで先行する海外事例も踏まえながら、サービスやコトづくりを含めた「新しいモノづくりのカたち」を見ていきます。

ビジネスモデル価値創造研究会

製品に付随してさまざまな価値を顧客に提供する「モノづくりのサービス化」の事例研究などを通じて、価格競争に巻き込まれずに利益を増大し結果的に生産性向上を実現する取り組みについて検討します。

人材育成関連事業

少子高齢化が課題となる中でモノづくりを支える人材の育成について検討します。特にDX時代における、働き方・働きがいのあり方を考察します。求められる能力開発・人事評価についてのほか、高齢人材の積極的な活用も議論し、次世代を担う児童・学生や、若者向けの体験型のイベントも開催します。

新モビリティ研究会

コロナ禍で需要大幅減に見舞われる一方、CASEやMaaS（乗り物のサービス化）により大変革期を迎える自動車産業。国内外のIT企業やスタートアップの動きもウオッチしつつ、単体の車にとどまらない移動ビジネスの今後を展望します。

長寿企業イノベーション勉強会

わが国に創業100年を超す長寿企業が多いことに着目し、災害や経済恐慌など危機を何度も乗り越えてきた長寿企業から日本型経営の優れた点を抽出、分析。会員企業の経営手法のヒントとなる情報を発信します。

企業価値革新検討会（仮称）

カーボンニュートラルをはじめとする環境面における取り組み、SDGsへの対応など、企業は社会において果たす役割を明らかにする必要性に迫られています。こうした対応はまた、企業価値を向上させる契機となりうるものです。ポストコロナへの対応も含めて、企業価値を革新していく好機を、さまざまな業種の企業が生かせるよう、イノベーションの手法などを具体的に検討していきます。

《新産業・ビジネス創出／ビジネスモデル構想力向上検討事業》

ロボット研究会

ロボット技術の発展とサービスロボット産業の創出を目的として、「ロボットテクノロジーを活用した新たな社会システムづくり」をテーマに、ユニバーサル社会、AI、IoT、ビッグデータ活用など、多様な角度から研究会を開催します。

AI研究会

近年、ディープラーニング（深層学習）の導入が企業でも一層と進み、第3次ブームが巻き起こっています。人間とAIが協業を進める上で、得意分野を補い合い、協調して問題解決に取り組むため、先進企業を中心に事例を紹介します。

新産業技術促進検討会

バイオマス、材料技術、IoT、エネルギーなど、豊かな社会づくりへの寄与が期待される分野の先端的な技術開発成果について、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の協力のもと、最新動向を紹介します。

《その他事業》

超モノづくり部品大賞

モノづくりを支える部品や素材に光を当て、優れた技術開発の成果を顕彰することで、モノづくり産業の基盤を強化し、さらなる活性化を図ります。

モノづくり推進シンポジウム

近年、ディープラーニング（深層学習）の導入が企業でも一層と進み、第3次ブームが巻き起こっています。人間とAIが協業を進める上で、得意分野を補い合い、協調して問題解決に取り組むため、先進企業を中心に事例を紹介します。

特別講演会

産業界を取り巻く経済環境や技術動向の変化に迅速に対応し、モノづくりの新たな潮流をとらえたテーマで開催します。

地区別研究会

地域の会員が参加しやすい会場で、地域の特性に応じ時宜にかなったテーマで実施します。地域の会員が交流できる見学会なども計画します。

顕彰事業「超モノづくり部品大賞」

モノづくり日本会議と日刊工業新聞社は、完成品の一部として優れた機能を発揮しながらも、一般には知られていない部品・部材を広く世に知らしめ、その功績を称える賞として「超モノづくり部品大賞」を実施しています。

部品・製品の認知度を高め、モノづくりの現場に携わる方々を元気づける賞です。

◇実績◇

第18回／2021年超モノづくり部品大賞 受賞部品一覧（抜粋）

《超モノづくり部品大賞》

燃料電池電極触媒

カタラー

《モノづくり日本会議 共同議長賞》

免疫光導波路センサ

キヤノンメディカルシステムズ

《ものづくり生命文明機構 理事長賞》

高機能バイオ素材 NeCycle®

NECプラットフォームズ

《環境・資源・エネルギー関連部品賞》

脱炭素社会の実現に貢献する 低発熱大容量リレー「G9KA」

オムロン

《奨励賞》

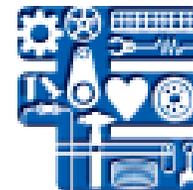
赤外線ヒーター式 サブストーク加熱装置

メトロ電気工業



詳細は、超モノづくり部品大賞ホームページをご覧ください。

>> <https://award.cho-monodzukuri.jp/>



超モノづくり部品大賞

「『超モノづくり部品』によるゼロカーボン」セミナー
2022年1月12日開催



モノづくり日本会議

事業紹介

ご清聴ありがとうございました。